

令和5年度 第6回全体庁議（8月4日開催）

区分	審議・ 報告	案件名 (担当部)	(1) 第2期帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況等 について[政策推進部]
----	---------------	--------------	--

■ 提案・報告の趣旨

第2期帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進にあたり、毎年度、取り組みの検証・改善を行うこととしており、今般、令和4年度の取り組みの評価・検証を行ったため、同内容を、帯広市総合計画策定審議会からの意見も踏まえた上で、令和5年8月18日(金)開催の総務委員会に報告するもの。

■ 提案・報告の主な内容(概要)

1 総合戦略の進捗評価等

- ・4つの基本目標毎に令和4年度の評価をとりまとめたもの。
- ・数値目標の進捗状況に応じて、「順調に進捗」、「概ね順調に進捗」、「さらなる進捗が必要」の3段階で評価している。
- ・基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」が、国全体での働き方改革の推進や事業者への周知啓発活動などを背景に、育休制度導入率及び北海道働き方改革推進企業認定数が目標を達成したため「概ね順調に進捗している」と前年度の評価より進捗があったと評価している。
- ・一方、基本目標1「新たな『しごと』を創り出す」、基本目標2「十勝・帯広への『ひと』の流れをつくる」、基本目標4「安全安心でいきいきと暮らせるまちをつくる」は、感染症による活動自粛や外出控えをはじめ、天候不順、物価高騰などの影響により、「さらなる進捗が必要」となっている。
- ・今後も重要業績評価指標(KPI)の推移と分析に基づき、令和6年度までの計画期間を通じて、個別に課題を整理しながら目標に向けた取り組みを進めていく。

2 帯広市の人口動向

- ・北海道発表の平成30年から令和4年における北海道主要都市の人口動態をもとに、増減率を道内主要都市と比較したところ、帯広市はマイナス1.7%となり、道央圏以外では減少幅が最も低い結果となった。
- ・自然動態の減少幅は拡大傾向にあり、令和4年については、1,260人の自然減となっている。また、帯広市における合計特殊出生率は、令和3年において、北海道と国の中間に位置している。
- ・社会動態は、令和2年以降転入超過傾向が続いており、平成30年と比較すると、令和4年は、東京、札幌への転出は大幅に減少しており、感染症の拡大が人口移動にも影響したものと考えられる。
- ・性別、年齢別の転入転出では、男性20代前半に転入超過傾向がみられる。
- ・外国人の人数については、感染症の影響により伸び率は減少したものの、令和4年は再び増加し、1,015人となっている。

■ 今後のスケジュール

- ・令和5年8月18日 総務委員会へ報告

■ 審議結果

- ・同内容で、8月18日総務委員会へ報告することで了承された。

■ その他、指摘事項等

- ・ 特になし